

万代シティ商店街

新潟市中央区の万代シティ商工連合会商店街振興組合（歌代淳理事長）は、「健康づくり」をキーワードにした商店街活性化に取り組む。目玉の一つとして年明けに、買い物客らが歩い

た日々の歩数をポイントに還元するサービスを実施する。商店街内に休憩スペースを備えたサロンも開設し、健康教室やウォーキングイベントなども計画している。

歩いてためて ポイント交換

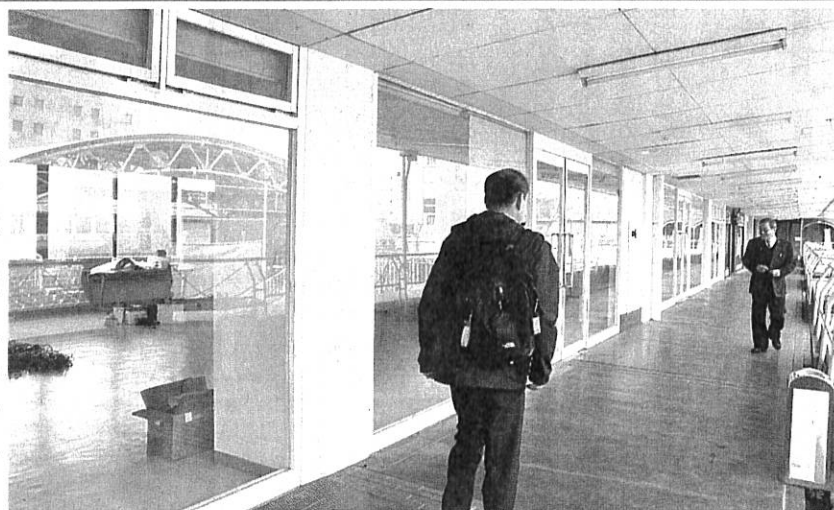
「健康」前面に活性化へ

商店街が2010年、地域住民に実施したアンケートで健康分野の関心が高く、休憩スペースの設置を求める声が多かった。このため、国や市の補助金を活用して事業に取り組み。

今後、有料の会員を募集し、歩数を一定期間保存できる歩数計を貸与。サロン内でポイントに交換でき、歩数が多いほどポイントが高くなる仕組みだ。ポイントは商品券に交換したり、サロンで開催する健康教室などに使ったりできる。

ポイント交換のため、商店街を訪れる機会を増やしてもらうことが狙い。歩数に応じた「歩行ポイント」とは別に、商店街の一部店舗で買い物

健康づくりの拠点となるサロンが開設される
空き店舗12日、新潟市中央区



するとたまる「買い物ポイント」も導入。ポイントをとをためるカードとして、新潟交通のバスICカード「りゅーと」を活用する。

サロンは、万代シティバスセンタービル3階にある空き店舗に本年度中に開設する。体力測定などの健康教室に加え、近隣住民や買い物客が気

新潟市は、10年満期170.5%で発行額は100億円。14日まで金融機関債を発行する。利回りは国債に上乗せした年0.7

市の全国型市場公募債

あすまで受け付け

全国型市場公募債は、市民が対象の「なじらね新潟市債」と異なり、機関投資家や全国の個人投資家に購入してもらうこと。まとまった資金を安定的に調達するのが狙い。都道府県や政令指定都市に認められた公募債で、新潟市は2007年度から毎年100億円ずつ発行している。

1万円単位で販売し、購入限度額は設定していない。利払いは年2回で6月と12月に市財務課は資金は道路整備の建設など合併設計費の国債より利回りで資産運用の

新潟市が導入を計画しているBRT（バス高速輸送システム）の運行事業者を決める審査委員会の第3回会合が11日、新潟市中央区の白山会館で開かれた。優先提案権を持つ新潟交通が、西区の青山地区までの延伸によるメリットなどを説明した。25日の次回会合で新潟交通に委ねるかどうか決定する予定。

市は2014年度中にJR新潟駅―白山駅間で導入方針を決定。一方、新潟交通は青山地区までの延伸を提案。前回の会合で審査委は、新潟交通による提案を「おおむね了承」としたが、白山駅までの案と、具体的に比較するよう求めていた。

会合では、新潟交通が青山延伸のメリットとして、青山―白山駅で重複して走っているバスを減らして効率化すること、その分を郊外路線に回せると強調。白山駅では運行本数が現行より約8%増にとまるが、青山案では約19%増となり、新たな路線も設定できるとした。

その後の審議は非公開

効率化で郊外線増便

新潟交通 青山延伸の利点説明

市BRT委



とした。市によると、新潟交通に対し、市民への十分な説明や明性確保を求めたとい

会合後、委の中村文彦・大学院教授はの乗り継ぎ機限られた条件のか整理が「